

自殺予防教育プログラム実施報告書

| | |
|-----|-----------|
| 学校名 | 北海道江別高等学校 |
|-----|-----------|

(1) 教職員間の共通理解を図る研修等の実施

| | | | |
|--------------|--|--------|----|
| 研修等の実施日 | 令和5年10月4日(水) | 研修参加人数 | 7人 |
| 研修内容 | ・発達障害を抱える生徒の自傷行為への対応について、担任を中心とした校内体制確立と保護者との連携強化に関するケース会議を実施した。 | | |
| 研修に参加した教職員の声 | ・複数の教員の関わりによって生徒の行動が大きく変容することが理解できた。 ・言葉以外のコミュニケーションが弱い生徒への対応を学ぶことができた。 | | |
| 研修等で使用した資料名 | ・担任による生徒の行動記録 ・スクールカウンセラーが作成した資料 | | |

(2) 「自殺予防教育プログラム」の実施

| | |
|-------------------------|---|
| | 実施状況（主な実施内容、アセスメントツール等による生徒の変容、生徒の感想等） |
| A 援助希求的 態度の 育成 | <p>○ 実践の概要（目的、対象学年、実施教科等、実践者、指導内容）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会の組織である保健局を中心に、有志参加の生徒も含めて心の問題に関する研修会を実施した。研修内容は、悩みなどを互いに相談できるような望ましい人間関係を確立しようとする態度や能力を身に付けるため、自己表現力やコミュニケーション能力を高める体験的な活動を行った。 |
| | <p>○ 生徒の変容を促す工夫（授業における工夫、他教科等との関連、事前・事後指導、外部人材の活用など）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な場面設定に対する自分の考えや思いなどを書き出し、四つのグループに分かれてシェアすることで自己開示能力を高め、他者の意見を受容する態度の大切さを理解した。教師をファシリテーターとして各グループの話し合いの状況を共有することで研修会全体の一体感を得ることができた。 |
| | <p>○ 生徒の変容（アセスメントツール「ほっと」等による生徒の変容）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉遣いや相手の様子に配慮しながら話すことができるようになった。また、聞くときにははっきり聞こうとする傾聴的態度が身に付いた。 |
| | <p>○ 生徒の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝え方次第で相手の受け取り方が変わることを改めて実感した」「自分の考えを伝えるとき、言い方によっては押しつけに聞こえることが分かった。 ・言い方ひとつでキツく感じられたり優しく感じられたりされるので、日常の会話に気をつけようと思った。 ・無意識に自分の価値観などで相手を決めつけたり、相手の思いを汲み取らずに話すことがあると気づいた。 |



【研修会の様子1】



【研修会の様子2】

B 早期の問題認識（心の健康）

- 実践の概要
 - ・ スクールカウンセラーを講師に、1 学年を対象とした講話「高校生のメンタルヘルス」を実施した。新しい環境に精神的な緊張や不安を抱えがちな新入生に対し、青年期の心のあり方やストレス・マネジメント及びコミュニケーションスキル、ソーシャルスキル等について学ぶ機会とした。
- 生徒の変容を促す工夫
 - ・ 専門家による分かりやすい説明等を通して、生徒たちが正しい知識を身に付け、主体的な意思決定や行動選択につながり、思春期・青年期という心身が急激に変化する時期をよりよく過ごそうと考えるための機会とすることを心がけた。
- 生徒の変容
 - ・ スクールカウンセラーの活用に前向きな気持ちをもてた。ストレス緩和の方法について自主的に行う意欲が湧いた。
- 生徒の感想
 - ・ 自分ではわかっていなかった心の SOS の特徴を知ることができて良かった。
 - ・ 今自分に起きている心理的変化は自然なものであって決していけないことではないことを知ることができた。
 - ・ 深呼吸で緊張がほぐれたり、困ったことがあったら周りの人に相談していいと分かってよかった。



【講話の様子】

C ストレス対処能力の育成

- 実践の概要
 - ・ ピアサポート研修会を実施し、生徒会保健局及び有志参加の生徒に対してストレス体験が心身に与える影響について学ぶ機会を提供することができた。
- 生徒の変容を促す工夫
 - ・ いじめについての架空の事例をもとに、自分だったらどう考えて行動するかなどの対処方法について考えた。参加生徒が、つらい体験で感じるストレスの重大さを理解しつつ、状況打開の方策について互いの意見を交換することに焦点を当てた。
- 生徒の変容
 - ・ 四つのグループに分かれて行った意見交流により、自分の考えの表明や他者の意見に耳を傾けることで今まで以上に深く物事を考えることができるようになった。
- 生徒の感想
 - ・ 精神的なストレスが症状として身体に現れることがよく理解できた。
 - ・ 相談とかけたことなかったから、ストレスをやわらげるためにもこれを期に少し考えてみようと思った。



【研修会の様子 3】



【研修会の様子 4】